

2006年3月28日

報道各位

住友金属鉱山株式会社

コーラル・ベイ・ニッケル社における HPAL 第 2 工場の建設について

住友金属鉱山株式会社（本社：東京都港区 社長：福島孝一）は、昨年 4 月に生産を開始したコーラル・ベイ・ニッケル社(所在地：フィリピン国パラワン島。以下、「CBNC」)において、既存の HPAL 工場に併設して、新たに同規模の第 2 工場を建設することといたしました。

総額 285 百万米ドルを投じ、2009 年 4 月からの生産開始を予定しています。

現在 CBNC はニッケル量で約 10,000 トン/年、コバルト量で約 700 トン/年のニッケル・コバルト混合硫化物（Nickel/Cobalt Mixed Sulfide。ニッケル品位約 55%）を生産していますが、これと同規模の第 2 工場を建設します。

HPAL 法は、これまでニッケルの回収が困難であった低品位のニッケル酸化鉱からニッケルやコバルトを回収する技術で、住友金属鉱山は第 1 工場の成功により、この技術分野において現在世界のトップランナーです。このたびの第 2 工場の建設は、貴重なニッケル資源のさらなる拡大につながるとともに、当社がめざしている「非鉄メジャークラス」にまた一歩近づくものであると考えています。

HPAL : High Pressure Acid Leach 高圧硫酸浸出

（ご参考）

- 1 . HPAL 第 2 工場について
- 2 . 2005 年 4 月 13 日発表「フィリピン ニッケル製錬プロジェクト 商業生産の開始について」

（本件に関するお問い合わせ先）

総務部広報室 広報担当課長 大場 浩正

TEL : 03 - 3436 - 7701

以上

参考資料 1 .

HPAL第 2 工場について

1 . 建設場所

既存第 1 工場に併設（同一敷地内）

2 . 投資総額

285 百万米ドル

3 . 生產品および生産量

ニッケル・コバルト混合硫化物をニッケル量で約 10,000 トン / 年、コバルト量で約 700 トン / 年。

第 2 工場完成後の CBNC の生産量は、ニッケル約 20,000 トン / 年、コバルト約 1,400 トン / 年となります。

4 . 原料

リオツバ鉱山およびその近傍の低品位ニッケル酸化鉱を原料とする予定です。

5 . 建設期間

2006 年 3 月 ~ 2009 年 3 月

6 . 生産期間

2009 年 4 月から 20 年間を予定

参考資料 2 .

2005年4月13日

報道各位

住友金属鉱山株式会社

フィリピン ニッケル製錬プロジェクト 商業生産の開始について

住友金属鉱山株式会社（本社：東京都港区 社長：福島孝一）が、三井物産株式会社（本社：東京都千代田区 社長：槍田松瑩） 双日株式会社（本社：東京都港区 社長：土橋昭夫） およびフィリピンの Rio Tuba Nickel Mining Corporation (リオ ツバ ニッケル マイニング社 社長：Manuel B. Zamora, Jr.)と共同で同国パラワン島リオツバ地区において進めているニッケル製錬プロジェクト（コーラル ベイ ニッケル プロジェクト）は、昨年8月末のプラント建設終了後の試験操業が順調に推移し、このたび本格的な商業生産に入りました。生産量については、本年は約7,000トン、来年以降は年産10,000トン（いずれもニッケル量換算）を予定しています。

なお、本日現地ではフィリピン大統領を招いてオープニングセレモニーが執り行われ、商業生産の開始を祝うことになっています。

従来ニッケルは、硫化鉱およびラテライト鉱（酸化鉱）のうち高品位の部分（ガーニエライト鉱）を主な原料として生産されてきましたが、本プロジェクトは HPAL 法（High Pressure Acid Leach: 高圧酸浸出法）という技術の導入により、低品位ラテライト鉱（リモナイト鉱）からのニッケル生産を可能としました。住友金属鉱山は HPAL 技術の確立によりニッケル資源調達の選択肢を増やし、世界トップクラスのニッケル製錬メーカーの地位を確固たるものとしていく所存です。

（本件に関するお問い合わせ先）

総務部広報室 広報統括課長 高橋 雅史

TEL：03-3436-7701

（参考資料）

コーラル ベイ ニッケル プロジェクトについて

以上

(参考資料)

コーラル ベイ ニッケル プロジェクト (Coral Bay Nickel Project) について

1. プロジェクトの概要

1) 建設場所

フィリピン南西部に位置するパラワン島の南部リオツバ鉱山隣接地

2) 投資総額

約 1.8 億米ドル

3) 生産品および生産量

ニッケル製錬の中間品であるニッケル・コバルト混合硫化物 (Nickel/Cobalt Mixed Sulfide) をニッケル量で年間約 10,000 トン、コバルト量で約 700 トン生産予定

4) 原料

Rio Tuba Nickel Mining Corporation (RTN社) がリオツバ鉱山で採掘したニッケル酸化鉱のうち、低品位ラテライト鉱 (Laterite) は、従来のニッケル回収方法に適さない性状であったことから、約20年にわたり現地に積み立てられたままになっていましたが、HPAL法の導入により、この処理が可能となりました。処理の対象となるラテライト鉱は工場に隣接して約1,600万トンが蓄積されており、本プロジェクトの原料として約20年分の鉱量がすでに確保されていることとなります。

5) インフラ

港湾、道路、病院、住宅などのインフラは、RTN社の既存設備を活用できることから、低コストでの開発が可能です。

2. 本プロジェクトのメリット

1) 合弁会社の生産品について

生産されるニッケル・コバルト混合硫化物は全量を住友金属鉱山が購入し、同社ニッケル工場 (愛媛県新居浜市) において、同社が独自で開発、実用化した世界最新鋭のMCL E (Matte Chlorine Leach Electrowinning) プロセスの原料として処理され、電気ニッケルおよび電気コバルトに製品化されます。

2) プロセスで使用される硫酸について

本プロジェクトでは年間約 26 万トンの硫酸の新規需要が見込まれます。住友金属鉱山では銅製錬事業の増強を進めており、それに伴い副産物として産出される硫酸の販売先が確保されるという点でもメリットがあります。

3 . Coral Bay Nickel Corporation(コーラル ベイ ニッケル株式会社)の概要

1) 資本金

5 8 7 . 5 百万フィリピンペソ

2) 株主および出資比率

住友金属鉱山株式会社	54%
三井物産株式会社	18%
双日株式会社	18%
Rio Tuba Nickel Mining Corporation	10%

3) 本社所在地

Barangay Rio Tuba, Municipality of Bataraza, Palawan, The Republic of the Philippines (フィリピン共和国パラワン州バタラサ郡リオツバ)

4) 社長

藤村 隆則



(コーラル ベイ ニッケル で稼動する HPAL 施設)